

～12月議会定例会冒頭挨拶～（令和元年12月9日）

令和元年第7回大町町議会定例会を開催しましたところ、議員の皆様には、師走のお忙しい中、ご参集賜り、ご審議いただきますことに厚くお礼申し上げます。

また、8月28日に発生しました豪雨では議員の皆様には、発災当初からご心配、そしてご協力をいただき感謝申し上げます。

本当なら、提案理由を申し上げる前に、この度の豪雨災害についてご説明を申し上げなければならないと思いますが、複数の議員から一般質問での事前通告がっておりますので、一部の報告と、ご支援ご協力いただいた皆様への感謝の意を表させて頂きたいと思っております。

今回の豪雨は、令和始まって、初めての大きな災害となりました。

大町町でも、秋雨前線の影響で、線状降水帯が長時間停滞し、これまで経験したことのない観測史上初の大雨を記録しました。

8月27日に降り始めた雨は、28日午前3時ごろから猛烈な豪雨に急変し、午前6時までの3時間雨量は220mmを超え、まれにみる大雨となりました。

大町町では、午前5時40分に町内全域に、1回目の「避難指示」を発令しましたが、午前6時30分には各所で浸水、すなわち発災を確認し、2回目の「避

難指示」を発令、全域に繰り返し避難を促したところであります。

1 回目の「避難指示」以降、全職員総力を挙げて、「町民は我々が守る。」という思いで、逃げ遅れゼロ、人命最優先を第一に、避難支援及び人命救助に全力を尽くしたところでございます。

この大雨での浸水被害は、町南部を中心に 390ha に及び、家屋ばかりでなく、商店街や農地、病院や企業にも浸水被害が広がり、佐賀鉄工所の油流出にもつながったところであります。

また、午前 11 時過ぎには内水氾濫がピークに近づき、下潟、中島地区で最大深水約 2 m、頼みの下潟排水機場（ポンプ場）が水没するという事態にまでに至りました。

家屋への浸水被害は床下、床上含め、300 戸を超え、今もなお、避難生活を強いられ、日常を取り戻せない方々がたくさんいらっしゃいます。心からのお見舞いを申し上げる次第でございます。

更に、午前 11 時 20 分には、ボタ山の崩落という全国的にも例がない事態が発生し、

3 回目の「避難指示」を全域に発令後、当該地域の避難されていない方々を、県の協力を得ながら、直接訪問し説得をし、対象住民、全員避難を完了することが出来ました。

発令した「避難指示」は、1週間に及びましたが、ボタ山現地調査の結果を踏まえ、安全が確認されたため、浸水地区を含め、9月4日に全域解除としました。

当時避難所には、最大で400人を超える町民の皆さんが避難をされておりましたが、10月20日に避難者が0となったことで、全避難所を閉鎖、避難されていた方々は、それぞれに、生活の拠点を移し、より日常に近い形で、復興を目指し、前を向き、日々頑張っておられます。

町としても、被災された方々へ、引き続き、できる限りの支援と共に、復旧復興に全力を傾けていく所存であり、被災者相談対応もこれまで通り続けていきたいと考えております。

また、災害ゴミにつきましては、ボタ山崩落により、集積場所を、町民グラウンドに移し、作業を行っておりましたが、やはり、居住地に近く、トラック運行や重機による振動・騒音、ハエや臭い等の衛生面で、苦情もあり、ご迷惑をおかけしておりましたが、職員が1件1件説明に回り、ご理解をいただき、ご協力を得ることが出来ました。

また、油の付いた稲や災害ゴミを受け入れていただく市町のご理解により、早期に片付けを完了することができ、関係各位のご協力に感謝するところでございます。

この度の災害は、大町町にとって、大変大きな打撃ではありましたが、町民の底力、絆の強さを遺憾なく発揮していただきました。

ある地区では、自分のボートで、町民の救助に当たっていただきました。

ある地区では、涙ながらに必死で避難を呼びかけていただきました。

またある地区では、声を掛け合い共に連れ立って集団で避難して来られましたし、地区の公民分館でも救援物資の支給等力を貸していただきました、中には、自らが被災されたにもかかわらず、災害弱者のお世話をいただいた方もいらっしゃいます。

そして、避難所では、リーダーとなり、励まし合って、避難者をまとめ、避難所の自主運営にご尽力いただきました。

まさしく、町民が「ワンチーム」となり「自分の命は自分で守る、自助」「共に助け合い自分たちの命は自分たちで守り合う、共助」、災害時には、一番重要な自助、共助を実践していただきました。

いま顧みて、大町町も武雄市や北方地区と、同じ惨状であり、あの異常かつ非常時にあって、大町町から災害による犠牲者を一人も出さなかったのは、町民の皆さんが日頃から培ってきた「互いの絆・地域力」の賜物と、感謝をしているところがございます。

今後も、地域の絆づくりや危機管理意識の醸成、自主防災組織の促進を図る

と共に、今回の豪雨災害を、つぶさに検証し、新たな地域防災計画策定に役立てていきたいと考えており、現在、国土交通省や佐賀県と協議を進めております。六角川水系の防災・減災対策や、学識者懇談会の意見も反映させていかなければならないと考えております。

最後に、自衛隊をはじめ、国や県、全国の市町村、NPO、また、県内外から駆けつけていただいた延べ

3千人近くのボランティアの皆さん、そして、今もなお、被災者をサポートいただいている「グリーンコープ」や、「おもやいボランティアセンター」の皆さん、更に、被災者相談活動を現在も担っていただいている「佐賀災害支援プラットフォーム」の皆さんに、大町町を代表して、敬意と心からのお礼を申し上げます。ありがとうございます。

(提案理由等、詳細につきましては、当HP町政欄議会会議録をご覧ください。)